

認定介護福祉士とは

認定介護福祉士のねらい

利用者ニーズの多様化や高度化に対応する質の高い介護実践、介護職の指導・教育、医療職等との連携強化など、幅広い役割を担う介護福祉士が求められてきています。

これからは、利用者の増加に伴い、介護職としての能力や知識に幅のあるメンバーをチームリーダーとしてとりまとめ、サービスの質の向上のために人材育成に取り組むことが重要になってきます。さらに、地域包括ケアの推進には、利用者に寄り添う専門職として、より広い視野をもった介護福祉士が必要になってきます。

介護福祉士は、資質向上の責務が課せられていることから、今後はさらに介護福祉士のキャリアパスが重要になっていきます。認定介護福祉士は、継続的な教育機会を提供し、資質を高め、社会的な要請に応えていくことを目的につくられた、介護福祉士のキャリアアップのための仕組みです。

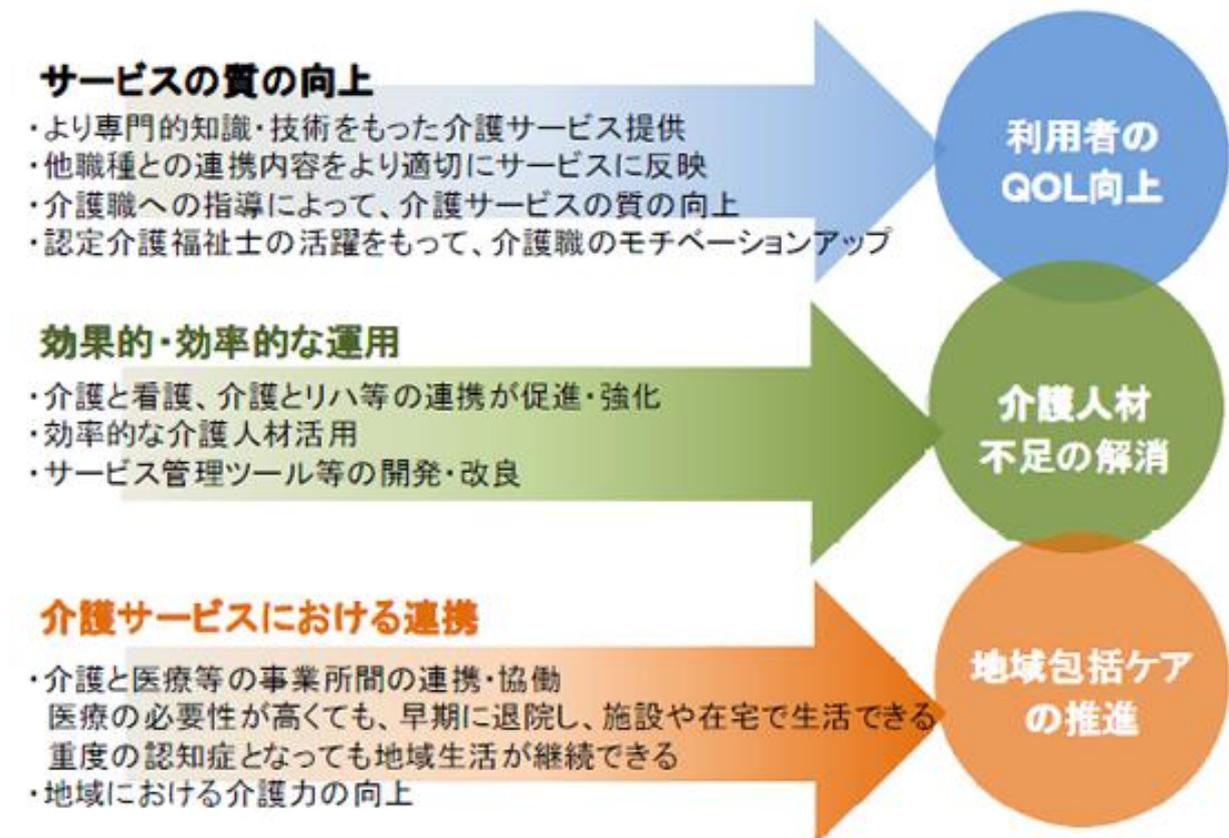
1. 生活を支える専門職としての介護福祉士の資質を高め、
 - ①利用者のQOLの向上
 - ②介護と医療の連携強化と適切な役割分担の促進
 - ③地域包括ケアの推進 など

介護サービスの高度化に対する社会的な要請に応える。

2. 介護の根拠を言語化して他職種に説明し共有したり、他職種からの情報や助言の内容を適切に介護職チーム内で共有することで、他職種との連携内容をより適切に介護サービスに反映することに寄与する。
3. 介護福祉士の資格取得後の継続的かつ広がりを持った現任研修の受講の促進と資質の向上を図る。つまり、介護福祉士資格取得後も介護業界で努力し続け、継続的に自己研鑽する拠り所となる。
4. 介護福祉士の資格取得後のキャリアパスの形成

認定介護福祉士の効果

認定介護福祉士は、自宅であっても、施設であってもその人が社会生活を営む“人”であることを理解し、その人の人格を尊重した、また、QOLを大切にした生活支援・自立支援を自ら実践するとともに、管理する介護職チームに浸透させ、関連する専門職、地域と連携・協働し、その人らしく生きられるようにQOLの向上を図るため、利用者、事業所、地域にさまざまな効果をもたらします。



認定介護福祉士とは

認定介護福祉士とは、居住・施設系サービスを問わず、多様な利用者・生活環境、サービス提供形態等に対応して、より質の高い介護実践や介護サービスマネジメント、介護と医療の連携強化、地域包括ケア等に対応するための考え方や知識、技術等を認定介護福祉士養成研修で修得した介護福祉士のことです。

認定介護福祉士に期待される役割と獲得する実践力



認定介護福祉士の役割

これまでの経験と修得した幅広い知識等を活用し、利用者、職場、他専門職、地域など、幅広く『かかわる』『支援する』使命を担っています。

事業所や施設の介護サービスマネージャーとして…

どのような利用者に対しても最善の個別ケアを提供するとともに、介護職によるサービス提供チームに対する教育、指導、介護サービスマネジメントを行い、サービスの質を向上させます。

介護サービス提供における連携の中核を担う立場として…

介護サービス提供において他職種（医療職、リハビリテーション職等）との連携、協働を強化します。

地域における介護力向上のための助言・支援者として…

家族介護者への支援のほかに、地域の施設・事業所、ボランティア、介護福祉士等の介護力を引き出し、利用者が暮らす『地域』の介護力の向上を図ります。

認定介護福祉士の活躍の場（例）



認定介護福祉士になるために

認定介護福祉士養成研修の受講要件

認定介護福祉士養成研修Ⅰ類

1. 介護福祉士としての実務経験（5年以上）

ただし、科目によっては実務経験を問わない場合がある。

2. 現任研修受講による内省や学習習慣の獲得

実務と現任研修への受講経験をつうじて、的確な判断や対人理解に基づいた尊厳を支えるケアについて、常に考え内省する習慣、学習する習慣を獲得している。

研修受講等

+

レポート提出 or 試験

⇒現任研修等 100時間以上。

⇒200時間以上で機構が認めた一定の研修については、レポート提出（or 試験）を免除する。

研修受講歴とレポートの提出によって研修実施機関が確認する。

※評価が客観的に認められること（修了証等）

3. 介護職の小チーム（ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム）のリーダー（ユニットリーダー、サービス提供責任者等）としての実務経験を有することが望ましい
4. 居宅、居住（施設）系サービス双方での生活支援の経験をもつことが望ましい

認定介護福祉士養成研修Ⅱ類

1. 認定介護福祉士養成研修Ⅰ類を修了
2. 介護職の小チーム（ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム）のリーダー（ユニットリーダー、サービス提供責任者等）としての実務経験を有すること
3. 居宅、居住（施設）系サービス双方での生活支援の経験をもつことが望ましい

認定介護福祉士養成研修の体系

認定介護福祉士養成研修は、「認定介護福祉士養成研修Ⅰ類」と「認定介護福祉士養成研修Ⅱ類」で構成されます。

認定介護福祉士養成研修Ⅰ類

介護福祉士養成課程では学ばない新たな知識（医療、リハビリ、福祉用具と住環境、認知症、心理・社会的支援等）を修得し、他職種との連携・協働を含めた認定介護福祉士としての十分な介護実践力を完成させる。利用者の尊厳の保持や自立支援等における考え方にたった介護過程の展開を、介護職の小チーム（ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム）のリーダーに対して指導するために必要な知識を獲得する。

認定介護福祉士養成研修Ⅱ類

Ⅰ類で学んだ知識をもって、根拠に基づく自立に向けた介護実践の指導をする力を獲得する。認定介護福祉士に必要な指導力や判断力、考える力、根拠をつくりだす力、創意工夫する力等の基本的知識に基づいた応用力を養成する。サービス管理に必要なツールを整理、改善し、それらから根拠を導きだし、その根拠に基づいた指導をする力を獲得する。生活支援の視点から、地域の介護力を高める力を獲得する。介護サービスという特性のもと、チーム運営、サービス管理、人材育成等について必要な専門的な理論に基づき、チーム、サービス、人材マネジメントを実践し、利用者を中心とした地域づくり（地域マネジメント）に展開できる力を獲得する。

(別表1)認定介護福祉士養成研修 カリキュラム

	領域名	科目名	単位	時間(課題学習を可とする時間)	形態
I 類	認定介護福祉士養成研修導入	認定介護福祉士概論	1	15(7)	講義・演習
	医療に関する領域	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ	2	30(30)	講義
		疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	2	30(15)	講義・演習
	リハビリテーションに関する領域	生活支援のための運動学	2	10(10)	講義
		生活支援のためのリハビリテーションの知識		20(8)	講義・演習
		自立に向けた生活をするための支援の実践	2	30(8)	講義・演習
	福祉用具と住環境に関する領域	福祉用具と住環境	2	30(0)	講義・演習
	認知症に関する領域	認知症のある人への生活支援・連携	2	30(15)	講義・演習
	心理・社会的支援の領域	心理的支援の知識技術	2	30(15)	講義・演習
		地域生活の継続と家族支援	2	30(15)	講義・演習
	生活支援・介護過程に関する領域	認定介護福祉士としての介護実践の視点	2	30(0)	講義・演習
		個別介護計画作成と記録の演習	2	30(0)	講義・演習
		自職場事例を用いた演習	1	30(20)	演習・講義
I 類 計				345(143)	
II 類	医療に関する領域	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅲ	2	30(15)	講義・演習
	心理・社会的支援の領域	地域に対するプログラムの企画	2	30(15)	講義・演習
	マネジメントに関する領域	介護サービスの特性と求められるリーダーシップ、人的資源の管理	1	15(7)	講義・演習
		チームマネジメント	2	30(15)	講義・演習
		介護業務の標準化と質の管理	2	30(15)	講義・演習
		法令理解と組織運営	1	15(7)	講義・演習
		介護分野の人材育成と学習支援	1	15(7)	講義・演習
		自立に向けた介護実践の指導領域	応用的生活支援の展開と指導	2	60(40)
		地域における介護実践の展開	2	30(0)	講義・演習
II 類 計				255(121)	
合計			37	600(264)	

※ 1時間を45分とすることができる。※ 講義中心とする科目については、15時間を1単位、演習

を中心とする科目については、30時間を1単位とする。